

③ 留守番も勉強です

生駒小学校長を命じられた平成4年は、学校週5日制がスタートする年でした。教育の内容は何度も改訂されてきましたが、学習する曜日が変更になるというのは初めての大きな変革でした。世の中には賛否両論があふれていました。そして、総論としては賛成だが、学力はどうなるのだ、1人で留守番しなければいけない子どもにどう対応するのだ、などといった意見がありました。

生駒小学校でもこのことへの対応を考えました。月1回の実施、いづれ月2回に、すべての週にと増えていくというこの変革に、段階を追って様々な対策を行い無事に進めることができました。そんな中でのF先生の言葉を思い出します。

「私は小学校のころ、ずいぶん過保護だったようです。1人、家で留守番なんてとてもとてもという状態でした。6年生になった私の初めての留守番を遠くの親戚のおばさんが見に来てくれたことがありました。親も、私も、留守番なんて無理と思っていたみたいです。でも、できました。留守番、それは私にとって大きな勉強でした。両親が勤務されていて土曜日は1人になる、そんな子にとっては、それも勉強なのだと思います」

しかし、土曜日の子どもの暮らし方、授業時間の削減に対する学校の対応などの質問が寄せられました。私は、この制度が間もなく始まるという9月の保護者会で校内テレビを使ってお話をしました。こんなとき、テレビはすばらしい道具です。手元のグラフや図表などの資料を確実に見ていただけるのです。その前にも、学校だより「すくすく」を使って、学校週5日制のねらいやほんとうの学力についての話をするなど、諸外国では当然のことになっているこの制度についての情報

を提供し、理解してもらうことに努めました。次は、こうしたことについて書いた学校だより「すくすく」のいくつかです。

□第 13 号の『すくすく』の時間って?』では、学校教育法施行規則が改正されて、9 月から第 2 土曜日がお休みになること、そのような改訂が行われる経緯や生駒小学校では、このことへの対応の 1 つとして「すくすく」の時間をつくったことについて書きました。

□第 16 号の「ほんとうに大切なことは、知識の量ではなく、自ら学ぶ方法を身につけ、進んで勉強しようとする心や力を育てることなんだ」ということを書いた「ほんとうの学力って?」は、この後に、その全文を載せました。

□第 20 号では、世界の国々での授業日やお休みの状況をお知らせし、「世界的な目で見ればどうなんだろう。当たり前のことではないだろうか」と考えていただきました。

□第 22 号は、「100 年後の学校だよりから」という題の創作物語です。ここには、学校週 5 日制が当たり前になっている 100 年後の「今から 100 年前、静岡県の中学生在がオリンピックで金メダルをとったというニュースに日本がわきたった年、学校週 5 日制が始まりました。昔は土曜日も勉強してたんです」という校長先生の話に「エーッ、土日も勉強してたの」と驚く子どもたちの姿を書き、初めて休みになる第 2 土曜日をどのように過ごしたらいいだろうと考えてもらいました。

□第 23 号では、初めての土曜休みの様子をお知らせいただいた手紙や子どもの書いた作文を紹介し、次の土曜日の過ごし方を考える資料にしてもらいました。

.....
○学校だより第 16 号から「ほんとうの学力って?」

学校週 5 日制という言葉とともに、「新しい学力観」という言葉が

よく聞かれるようになりました。

この言葉に代表されるこれからの教育についての考え方を、県教育委員会が出している「学校週5日制の実施について」という文書をもとにしてまとめてみると、

- (1) 基礎的・基本的な内容を身につけること。
- (2) 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育てること。

の2つが大切なのだということになります。

たしかに、これまでは学力を知識の量で計ってきたという感じがあります。すなわち、「どれだけたくさん覚えたか」「どれだけ早く答えられるか」を中心に測定してきたように思います。それはそれで大切なことなのですが、「自ら進んで勉強しようという意欲」や「社会の変化に対応して生きていく力を育てること」を一層大切にしたいということなのです。

このことを歴史の学習を例に考えてみましょう。今、市内の中学校で使われている社会科・歴史の教科書は300ページあります。そして、私が生まれた昭和11年2月26日に起こった「2.26事件」のことは259ページに書かれています。すなわち、私が生まれた日までの歴史が258ページ、生まれた後の歴史が42ページなのです。歴史はどんどん長くなるという訳です。理科でも同じように新しい発見があります。多くの知識を身につけることを教育の目的だと考えるならば、学習内容は増え続けることになります。そうすると、学校5日制どころか、逆に7日制を考えなければならなくなるのではありませんか。

基礎的・基本的な知識はしっかりと持っていなくてはなりません、単にその量を増やすことよりも、「必要に応じて調べる方法を知り、自ら学ぶ方法を身につけ、進んで勉強しようとする心や力を育てるこ

と」が重要になってくるのです。そのためにも、学習に対する意欲や関心を高めさせることが大切なのです。

「生活にゆとりを持たせ、様々な体験をさせたい」

「進んでいろんなことに挑戦する気持ちを育てたい」

こんな考え方から学校週5日制が生まれました。子どもたちの明るい未来のために「今、大切なことは何か」を考えたいと思います。

こうして、学校週5日制が実施された翌年の9月、佐賀県で、文部省主催西部地区学校週5日制実施推進研究協議会が開催され、三重県から沖縄県までの24府県から参加した関係者が学校週5日制時代の

教育課程や学校運営について論議しました。小学校部会での実践発表校に生駒小学校が指定され、私は生駒小での取り組みや子どもたちの様子をお話することになりました。



県教育委員会学校教育課で過ごした8年間はこうした会に、学校現場で指導にあたっておられる先生たちに参加してもらい、指導主事として同行しましたが、今度は指導係長のY先生たちに連れて行ってもらうことになりました。

関門海峡トンネルを通過して九州に入り博多駅に停車しました。ここは昭和60年に文部省・福岡県教育委員会主催の中学校教育課程運営改善講座が開催されたところです。当時、係長を務めていた私は、理科部会に〇中学校に勤務し、奈良県教育委員会指導委員として指導にあっていたY先生に参加してもらいました。その私が今度はY先生に連れてきてもらったのです。不思議な因縁を感じる佐賀への旅でした。

小学校部会で報告した私たちの取り組みである、学校だより「すくすく」を使っての啓発や土曜日にあてる教科の学習を減らし、学校裁量の時間である「すくすく」の時間を活用するという方法は、文部省小学校課編集の初等教育資料平成5年11月号に掲載され、全国の小学校で参考にしていただくことになりました。

今、この冊子を取り出すと、無事に発表を終えた夜、ムツゴロウやクツゾコなどといった佐賀の海で捕れる珍しい魚料理で飲んだ酒が思い出されます。

学校週5日制については、今もなお、いろいろな課題のあることが指摘されているようです。学校週5日制は学校の制度なのですが、それだけではありません。教育のあり方や社会の制度ともあいまって考えていかなければならない問題であるように思います。